

学科・コース別課題（人間科学科人間科学専攻、人間科学科）

自学・自習期間における自習のための課題

人間科学科（人間科学専攻）

今回の東北関東大震災の影響で、本学は入学式を含む始業時期を約3週間延ばすことになりました。この3週間は春休みの延長ではなく自習によって学習を進める期間と位置づけて、学生が有意義に使ってもらうことを意図しています。したがって、学科ごとに学年および期間に応じた学習課題を提示し、授業開始後に円滑にスタートが切れるように考えています。

人間科学科（専攻）では、学年ごとに課題を設定しましたので、自分の行うべき課題を確実に行ってください。

(1) 課題選択の原則

課題は、下記の原則に基づいて選択すること。該当する課題が複数ある場合は、上級学年の課題を行うこと（例、春学期に基礎ゼミナールⅢとテーマ研究を両方履修する予定の学生は、3年生用の課題）。

- ・基礎ゼミナールⅠを履修する学生 → 1年生用
- ・基礎ゼミナールⅢを履修する学生 → 2年生用
- ・テーマ研究を履修する学生 → 3年生用
- ・12月に卒業論文を提出する予定の学生 → 4年生用
- ・2011年度に編入学する学生 → 3年生用

※いずれにも該当しない、よくわからないなど、行うべき課題の判断ができない場合は内田（アドレスは下記参照）まで。

(2) 学年別課題の担当教員

質問がある場合は各課題の担当者にメールすること。大学に来て、直接教員と相談したい場合は各教員の個別相談時間に来室すること。

1年生用 大野 (m_ono@mail.tais.ac.jp) 2年生用 荒川 (y_arakawa@mail.tais.ac.jp)
3年生用 澤口 (k_sawaguchi@mail.tais.ac.jp) 4年生用 内田 (eiji_uchida@mail.tais.ac.jp)

※実際にメールを送信する際には、上記アドレスの「*」を半角の「@」に変えること。

(3) 自習期間中の個別相談時間（5月以降は変更があります）

荒川 康	月曜 3限	キンモンス, アール	木曜 3限
井出 裕久	月曜 3限	澤口 恵一	金曜 2限
今村 成夫	月曜 3限	谷田 林士	火曜 3限
内田 英二	木曜 3限	長谷川 智子	月曜 3限
大野 道夫	金曜 3限(22日は21日に振替)	藤見 純子	火曜 3限
加川 帯刀	月曜 3限		

なお、人間科学科（専攻）教員は原則的に春学期に授業がある曜日の午前10時～午後4時の間は出校する予定です。

テーマ 「大地震とこれからの大学生活」

I. 学習テーマ設定の趣旨、および求めたい学習の成果や目標について

今回の大地震は、皆さんの人生にとっても、また日本社会にとっても重大な出来事でした。この地震のために、残念ながら大学入学は約3週間延期となりましたが、むしろこれを貴重な経験として、人間や社会の問題について考え、入学後の大学生活をより充実させていくために、入学までの期間の学習テーマを設定します。

具体的には、1) 今回の大地震、2) これからの大学生活、というテーマについて調査、研究することによって、さまざまな問題関心に気づき、それについて調べ、レポートにまとめていくことを学んでいただきたいと思います。

II. 学習テーマの具体的な内容

(1) 課題

1) 今回の大地震

今回の大地震について、本、新聞、雑誌、インターネットなどを参考資料として、①どのような出来事であったのか、②日本社会のどのような問題が明らかになったのか、③自分に出来ることは何なのか、について書きなさい。

2) これからの大学生活

これからの大学生活について、本、新聞、雑誌、インターネット、またドラマ、映画、マンガなどを参考資料にしてもよいので、①大学とはどういう所なのか、②大学の4年間で自分は何をしたいのか、について書きなさい。

(2) レポートの体裁

- ・ A4用紙をタテに使用し、横書きとする。1) は3,200字程度、2) は1,600字程度とする。
- ・ ワードプロで書く場合は、A4用紙をタテに使用し、40字×40行に設定した上で、文字は横書きで印字する。文字の大きさは10.5ポイントから11ポイントとする。用紙の余白は上下左右ともに20mmに設定した上で、読みやすい文字間隔にすること。
- ・ 手書きの場合は、A4横書き400字詰原稿用紙を用いること。
- ・ 参考資料について、直接引用した文は「 」でくくり、そのあとに資料の出典を()でくくって明記する。

例) 「今回の地震は、……」(『A新聞』2011年4月1日夕刊、1面)

「地震学者は、……」(大正太郎著『地震学』大正大学出版、2011年、10-15ページ)

またインターネット上のホームページ、mixi、ツイッターなどを参考資料とする場合は、そのURLや名前、記事名など、そして記事が書かれた日時(不明の場合は書かなくて良い)、自分の閲覧日時を書く。(例 大正大学ホームページ (<http://www.tais.>) 「〇〇についてのお知らせ」2011年4月1日、4月2日閲覧。)

- ・ 参考資料のなかで、直接引用しなかったものは、それぞれのレポートの最後に出版年や記事が書かれた日時順に列挙する。(記事が書かれた日時が不明なものは、最後にまとめて載せる)

Ⅲ. 学習にあたってのアドバイス

- (1) 参考資料については、なるべく幅広くあたり、1つの資料をうのみにするのではなく、比較検討しつつレポートをする。
- (2) これから人間科学科で学習していくために、現代社会のライフ（人間の営み）、そしてこれからの自分のライフについて考えながらレポートをしてもらいたい。

Ⅳ. レポートの指示

- ・ 提出締切：2011年5月9日（月）3限「基礎ゼミナールⅠ」の授業時
- ・ 提出場所：基礎ゼミナールⅠの教室
- ・ 提出された課題は基礎ゼミナールⅠの授業で使用し、基礎ゼミナールⅠの評価に加算します。

※質問は m_ono*mail.tais.ac.jp まで。実際に送信するときは、左記の「*」を半角の「@」に変えること。また送信の際は、件名に「自習課題の質問（氏名）」と必ず入力すること。

※メールが使えない場合は、人間科学閲覧室（03-5394-3065）に電話してください。その際、「1年生の〇〇（氏名）です」と必ず名乗り、「用件」を伝え、指示を受けてください。

以上

● 人間科学専攻 2年生用

テーマ 大震災からみる「地元」

Ⅰ. 学習テーマ設定の趣旨、および求めたい学習の成果や目標について

3月11日に三陸沖を震源として発生した東北関東大震災は未曾有の被害をもたらしています。連日、東北地方のさまざまな地域のように報道されています。被害の状況も日々変化していますが、その変化に伴ってマス・メディアやインターネットをとおして私たちにもたらされるのは、その地域に関することです。地域がクローズアップされているのです。これは、単にその地域に地震と津波が起きたということだけではなく、その地域こそが人びとの生活の場であり、その生活の場が大きく破壊されたからにほかなりません。同時に、それぞれの地域は、個々に独立しているのではなく、まずは日本社会という全体のなかにあって相互に関連しています。今回の震災で大きな被害を受けなかった地域も、その影響がまったくないとはいえません。

地域が注目されている今こそ、今回大きな被害を免れたことに感謝しつつ、自分の生まれ育った地域（地元）についてより正確・詳細な情報をもとに知り、同時に、その身近な地域が今回被災した地域とどのような関連しているのかを考えて欲しいと思います。

Ⅱ. 学習テーマの内容

(1) 課題

あなたの地元（現在居住地でも出身地でもかまいません）を取り上げ、① その地域の風土、歴史、産業、文化などの特色を調べてまとめたうえで、② 今回の震災によって、地元地域の人びとの生活や産業などにどのような変化がみられるか、また、今後どのように変化すると考えられるかについて、可能な限り具体的なデータ・資料をあげて書きなさい。

(2) 体裁

- ・提出様式はA4用紙をタテに使用し、40字×40行に設定した上で、文字は横書きで印字する。文字の大きさは10.5ポイントから11ポイントとする。用紙の余白は上下左右ともに20mmに設定した上で、読みやすい文字間隔にすること。
- ・提出枚数は①と②で3枚程度とする。用紙の左上をホチキス止めすること。表紙は不要。
- ・冒頭の1行目に、自分で考えたタイトルを記入する。2行目には、学籍番号と氏名を記入すること。
- ・本文は4行目以降から始め、段落をつくり、段落の最初は1マスあけるなど、原稿用紙の使い方にしたがって記述すること。
- ・本文中では、主語と述語をきちんと対応させるとともに、「です・ます調」ではなく「である調」で統一すること。
- ・本文全体を複数の節に分け、各節には「1. 2. . . .」などの数字のあとに、節の内容を端的に示す適当な見出しをつけること。
- ・本文末には文献リストを設けること。
- ・文章の引用のしかたや文献リストの書き方については、日本社会学会編『社会学評論スタイルガイド第2版』に準拠すること。なかでも「3. 引用」「4. 文献」の部分はよく読み、理解した上で、正確に記述すること。

なお、『社会学評論スタイルガイド第2版』は、下記のURLで参照できるほか、人間科学科閲覧室にも冊子を用意するので、必要に応じて参照すること。

『社会学評論スタイルガイド第2版』URL：<http://www.gakkai.ne.jp/jss/bulletin/guide.php>

Ⅲ. テーマ学習の方法

(1) レポート作成の指針

課題は、① 地元の特色、② 今回の震災による地元の変化（現在みられる変化と今後考えられる変化）の2つから構成して下さい。

以下に①・②を執筆する上で留意する点を示します。

① 課題でいう「地元」の地域的な広がりには、とくに指定しません。そのうえで、このような地元地域の風土、歴史、産業、文化などを調べるには、たとえば、『市史』『区史』『町史』、『市勢要覧』『区勢要覧』『町勢要覧』などが参考になるはずです。各自が居住している環境や執筆時の状況などが異なるかと思いますが、地元の図書館などを利用して、調べられる範囲で調べてください。

また、市や町などの公式ホームページも役に立つはずですが、そのほかのインターネットの情報は、その内容の信憑性を吟味したうえで、確かであると判断したもののみを利用してください。

② 現在みられる変化については、まずじっくりと、地元の人たちの生活・行動、会社、商店や工場の様子を観察してください。そこには、きっと変わったことがあるはずです。そのうえで、そうした観察と、さまざまな被災地にかんする新聞情報とをつき合わせながら、現在みられる地元の変化と今後考えられる変化についてまとめてください。新聞は、自宅でとっている特定の一家のものでも、複数の新聞社の記事を取りあげてもかまいません。記事に関しては、ネットにアップされたものでも紙媒体のものでもかまいません。ただし、このレポートでは、現状把握の対象をレポート執筆後にも裏付けのとれる新聞記事に限ります。個人のブログやテレビでの報道（執筆者の記憶があいまいであることにより、テレビ報道が伝えている事実を誤解することがあるため）などは、レポートで利用する情報とはしません。

なお、東京電力福島原子力発電所の事故にともなう放射線・放射性物質・計画停電などによる影響は、地元の「変化」には含めません。

また、このレポートでは、収集する情報・知見はより正確であることを求めています。どのような対象、側面を取り扱うかは、執筆者の関心や執筆者が現在おこなっている情報収集の環境に応じて柔軟にとらえてくれれば結構です。①②の分量のバランスについても任意です。

IV. レポートの指示

- ・提出期間：2011年4月26日（火）～5月9日（月）＜土、日、休日は除く＞
- ・提出場所：人間科学科閲覧室（4月26日はガイダンス会場で受取ります。）
その他は午前10時～午後4時30分（午前11時30分～午後0時30分は閉室）
- ・提出された課題はコメントを付して返却し、基礎ゼミナールⅢの評価に加算します。

※質問は y_arakawa@mail.tais.ac.jp まで。実際に送信するときは、左記の「*」を半角の「@」に変えること。また送信の際は、件名に「自習課題の質問（氏名）」と必ず入力すること。

以上

● 人間科学専攻 3年生用

I. 学習テーマ設定の趣旨、および求めたい学習の成果や目標について

人間科学科の3年生には、2年生までの学習内容を基礎として、自分で探求すべきテーマや問題を設定し、既存の文献・資料などを収集分析して、考察結果を文章にまとめる力が必要になります。

そこで、4月の大学休業期間中に、実際に社会に起こっている問題について、自ら探求する方法を実際に試してみて、自分なりの意見を述べられるようにして欲しいと思います。具体的には、以下の課題図書が提示する問題を読み解き、それに対して自分の意見を述べてもらいます。

このことを通じて、3年次に必修であるテーマ研究における研究方法の一端を学び、4年次の卒業論文執筆にも結びつけていきます。

II. 学習テーマの具体的な内容

(1) 課題

以下の3つの課題図書のうち1冊を選んで読み、各著者が展開している意見のうち、賛同できる部分と賛同できない部分に分けて説明し、とくに後者については賛同できない根拠とともにあなたの意見を述べなさい。

自分の意見を述べる際には、課題図書以外の文献（書籍、学術雑誌、学術論文等）を最低3つ以上参照し、それらの文献に書かれていることと自分の意見とを明確に区別した上で記述すること。

なお、ここでいう文献には、原則としてインターネット上の情報は含みませんが、後に述べるサイニなどの学術雑誌検索サイトからダウンロードした学術論文の写し（PDF等）は含みます。

<課題図書>

A：湯浅誠，2008，『反貧困―「すべり台社会」からの脱出』岩波新書 No. 1124.

B：安田節子，2009，『自殺する種子―アグロバイオ企業が食を支配する』平凡社新書 No. 469.

C：城繁幸，2006，『若者はなぜ3年で辞めるのか？―年功序列が奪う日本の未来』光文社新書 No. 270.

(2) レポートの体裁

- ・提出様式はA4用紙をタテに使用し、40字×40行に設定した上で、文字は横書きで印字する。文字の大きさは10.5ポイントから11ポイントとする。用紙の余白は上下左右ともに20mmに設定した上で、読みやすい文字間隔にすること。
- ・提出枚数は3枚以上5枚以下とする。用紙の左上をホチキス止めすること。表紙は不要。
- ・冒頭の1行目に、自分で考えたタイトルを記入する。2行目には、学籍番号と氏名を記入すること。
- ・本文は4行目以降から始め、段落をつくり、段落の最初は1マスあけるなど、原稿用紙の使い方にしたがって記述すること。
- ・本文中では、主語と述語をきちんと対応させるとともに、「です・ます調」ではなく「である調」で統一すること。
- ・本文全体を複数の節に分け、各節には「1. 2. . . .」などの数字のあとに、節の内容を端的に示す適当な見出しをつけること。
- ・本文末には文献リストを設けること。
- ・文章の引用のしかたや文献リストの書き方については、日本社会学会編『社会学評論スタイルガイド第2版』に準拠すること。なかでも「3. 引用」「4. 文献」の部分はよく読み、理解した上で、正確に記述すること。

なお、『社会学評論スタイルガイド第2版』は、下記のURLで参照できるほか、人間科学科閲覧室にも冊子を用意するので、必要に応じて参照すること。

『社会学評論スタイルガイド第2版』URL：<http://www.gakkai.ne.jp/jss/bulletin/guide.php>

Ⅲ. 学習にあたってのアドバイス

文献を探すのはけっこう手間のかかることです。文献がなかなか見つからないときは、まずは大学図書館のレファレンスに聞いてみることを勧めます。また文献検索をする場合に役立つインターネットのウェブサイトがありますので、参照してください。

<文献全般>

- ・大正大学図書館 (http://www.tais.ac.jp/related/tais_library/) ←総合検索サイト
- ・Webcat-Plus (<http://www.webcatplus.nii.ac.jp/>) ←他大学の文献を探す場合や連想検索が便利

<学術論文・雑誌論文>

- ・CiNii (<http://ci.nii.ac.jp/>) ←学術論文検索の定番。PDF化された文献も多数。
- ・GoogleScholar (<http://scholar.google.co.jp/>) ←CiNiiで見つからなかったときに。
- ・上記のサイトで文献の所在情報を得られたとしても、本文そのものが手に入りにくい場合があります。その時には、国立国会図書館に直接出向いた方が早く文献が手に入る場合もあります。国立国会図書館（東京都千代田区永田町1-10-1。東京メトロ「永田町駅」徒歩5～8分、「国会議事堂前駅」徒歩12分）
- ・大正大学図書館で他大学から文献を借り出したり、コピーを送付してもらうこともできます（ただし多少時間がかかったり、お金がかかる場合もあります）。詳しくは図書館のレファレンスに尋ねてください。
- ・『社会学評論スタイルガイド』を参照しても、提出課題の体裁が分からない場合は、実際に『社会学評論』という学術雑誌に載っている論文を手に入れて、その体裁を参考にするとまとめやすくなります。『社会学評論』は、人間科学科閲覧室にも常備されていますし、全国の大学や大型公共図

書館にも備えてありますので、参照してください。

時間のない人は、科学技術振興機構のウェブサイトに入ると、『社会学評論』のうち2006年以前の号をPDFで読むことができます。体裁を参照する場合は、できるだけ新しい号を参照してください。

科学技術振興機構「Journal@rchive」ウェブサイト

(http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/jnltop_ja.php?cdjournal=jsr1950)

IV. レポートの指示

- ・提出期間：2011年4月26日（火）～5月9日（月）＜土、日、休日は除く＞
- ・提出場所：人間科学科閲覧室（4月26日はガイダンス会場で受取ります。）
その他は午前10時～午後4時30分（午前11時30分～午後0時30分は閉室）
- ・評価対象
記述された内容のほかに、きちんと『社会学評論スタイルガイド』に則った体裁で書かれているか、課題図書以外に参照論文等が3本以上あるかなど、形式にも重点をおいて評価します。きちんとした形式で文章を書くことができれば、年齢や性別の異なる読者にも文意が伝わり、今後のテーマ研究や卒業論文を書く際にも有効です。
- ・提出された課題の評価は、テーマ研究A、テーマ研究Bの評価に加算します。

※質問は k_sawaguchi@mail.tais.ac.jp まで。実際に送信するときは、左記の「*」を半角の「@」に変えること。また送信の際は、件名に「自習課題の質問（氏名）」と必ず入力すること。

以上

● 人間科学専攻 4年生用

I. 学習テーマ設定の趣旨、および求めたい学習の成果や目標について

今回の地震災害およびその影響により新年度の授業開始が約1ヶ月遅くなったことはすでに大学のホームページ等により承知していると思います。この措置に伴い、人間科学専攻では卒業論文の指導教員が4月末の学年別ガイダンスまで決定できない状況になりました。この事態は卒業論文執筆を控えた4年生にとっては少なからぬ影響があります。

大学は授業開始までの約1ヶ月に及ぶ期間を「自学・自習期間」と位置づけ、各学科が学年ごとに設定した課題についてレポート提出を行うことを決めました。人間科学専攻では4年生に対しては卒業論文に関するレポート課題を設定することにしました。

専攻では昨年11月27日に実施したガイダンスにおいて卒業論文執筆に関する説明を行いました。その際に、卒業論文指導教員を決定する3月末実施予定の学年別ガイダンスまでに「卒業論文執筆計画書」を作成しておくことを指示しました。大部分の学生は、この説明に基づいて計画書の作成に取り組んでいるものと思います。

今回の特別な事情のため、現時点では指導教員は決まっていますが、この自習期間は卒業論文を進めるために与えられた貴重な時間であると捉え、各自の研究のために有効に使ってもらいたいと考えます。具体的な内容については後述しますが、各自が考えている研究テーマに基づいて参考資料の収集を積極的に行い、そのテーマに対してその資料をどのように活かすことができるかを検討し、レポートに

まとめてください。このレポートを作成することは卒業論文執筆の第一歩となるだけでなく、決定した指導教員との具体的なディスカッションに繋がるものと期待しています。

II. 学習テーマの具体的な内容

(1) 課題

以下の1)～4)の内容を備えたレポートを作成しなさい。

- 1) 卒業論文のテーマを記す。あくまでも現時点で考えているものでかまわない。
- 2) そのテーマを考えた理由について述べる。
- 3) 卒業論文提出時期（12月上旬）を念頭に置き、完成までのスケジュールを作成する。
- 4) 自分が考えたテーマに関連する文献（書籍1冊以上、学術論文3編以上）を読み、さらに関連文献以外に3編以上の文献を参照し、それらの文献で明らかにされている事実、各著者が展開している意見のうち、賛同できる部分と賛同できない部分に分けて説明し、とくに後者については賛同できない根拠とともに自分の意見を述べる。

なお、11月27日に配布した「卒業論文執筆計画書」も完成させ、学年別ガイダンスに必ず持参すること。用紙を受取っていない学生は至急人間科学閲覧室に来室すること。

(2) レポートの体裁

- ・ 提出様式は、A4用紙をタテに使用し、40字×40行に設定した上で、文字は横書きで印字する。文字の大きさは10.5ポイントから11ポイントとする。用紙の余白は上下左右ともに20mmに設定した上で、読みやすい文字間隔にすること。手書きは認めない。
- ・ 提出枚数は、課題1)～3)で1枚程度、4)で3枚程度とする。用紙の左上1ヶ所をホチキス止めすること。表紙は不要。
- ・ 冒頭の1行目に各自が考えたテーマを記入する。2行目には、学籍番号と氏名を記入すること。
- ・ 本文は4行目以降から始め、段落をつくり、段落の最初は1マスあけるなど、原稿用紙の使い方にしたがって記述すること。
- ・ 本文中では、主語と述語をきちんと対応させるとともに、「です・ます調」ではなく「である調」で統一すること。
- ・ 本文全体を複数の節に分け、各節には「1. 2. . . .」などの数字のあとに、節の内容を端的に示す適当な見出しをつけること。
- ・ 本文末には文献リストを設けること。
- ・ 文章の引用のしかたや文献リストの書き方については、日本社会学会編『社会学評論スタイルガイド第2版』に準拠すること。なかでも「3. 引用」「4. 文献」の部分はよく読み、理解した上で、正確に記述すること。

なお、『社会学評論スタイルガイド第2版』は、下記のURLで参照できるほか、人間科学科閲覧室にも冊子を用意するので、必要に応じて参照すること。

（『社会学評論スタイルガイド第2版』URL：<http://www.gakkai.ne.jp/jss/bulletin/guide.php>）

III. 学習にあたってのアドバイス

(1) 研究テーマについて

人間科学科の卒業論文として相応しいかつ適切なテーマ（倫理的に問題がない）であるかを考えること。また研究を進め、論文を執筆するにあたって、参考にできる文献や資料があるか、調査あるい

は実験ができるものであるか、など実現の可能性があるかについて熟慮すること。

(2) 指導を受けたい教員を念頭におくこと

指導を希望する教員の専門性と各自が設定したテーマが著しく離れている場合、適切な指導は受けられないばかりでなく、論文自体の質も低くなってしまふことを考えること。

(3) 収集する資料について

書籍の場合、いわゆる一般書（実用書、入門書など）ではなく学術的な専門書を集めること。学術的な専門書に関して明確な定義はないが、以下に示すことは参考になると思われる。

①その研究領域の研究者（個人・グループ）が著者あるいは編者になっていること

②注（註）や引用、出典などが示されていること

③参考文献等の一覧が巻末や章末に示されていること

(4) 文献の収集方法について

本学図書館は4月1日に再開予定である。また他大学の図書館や公共図書館を利用する場合はそれぞれのHPなどで注意事項を確認すること。その他、学外データベース（Webcat-Plus、CiNii、EBSCOhost、MAGAZINE PLUS など）を利用することも有効である。

IV. レポートの指示

提出日時・場所：4月26日の学科別ガイダンス時・ガイダンス教室

卒論指導教員の決定はレポート提出を前提に行う。多くの学生が特定の教員に集中した場合、レポートを提出しない学生は選考の対象から除外することを承知しておくこと。

※質問は eiji_uchida@mail.tais.ac.jp まで。実際に送信するときは、左記の「*」を半角の「@」に変えること。また送信の際は、件名に「自習課題の質問（氏名）」と必ず入力すること。

以上